1969.7.17 明治大学新聞

深夜のハプニング

車窓から七号館に火炎瓶

本校

神田本校は全学バリに突入して以来、これまで外部から攻撃を受けるような不穏な動きはなかったが、団交を終えた十一日深夜、全学を緊張させるようなハプニングが発生した。

十二日午前一時頃、七、八人のグレン隊風の男が錦華公園を通る全学生にわざとぶつかるなど、イヤガラセをした。これを〝右翼〟だと見てとった五号館の学生がヘルとゲバ棒をもって公園にかけつけた。これに驚ろいた男達は逃げ出し、近くの酒屋の倉庫から空ビンを持ち出し、「そこのヘルメット野郎！」と怒鳴った。

学生側はただのチンピラと思っていったん引き揚げた。

ところが約二〇分後、七号館の学生約三〇人がデモをかけて、バリ内に入ろうとしたところ、「民青か右翼らしきグループが十号館付近にいる」との情報が入った。各校舎に泊り込んでいた学生にも伝わり、本校地区は一時騒然とした。

真っ先に駆せ参じたのは二文闘委。二〇人の武装学生が十号館下の坂道をかけおりて行った。すると、約一〇〇対の向こうにヘルメット、角材・鉄パイプの一団約三〇人が身構えていた。先ほどのチンピラかと思ったが、武器を握えているところをみると、たんなるチンピラではないことは明らか。闇を通して、しばらく対峙した後、突然アキビンが目の前で砕けた。と同時に、「ワーッ」と〝敵〟が攻勢に出た。〝味方〟はしばし後退。「逃げるな」の声。そうする内、約二〇人の応援部隊が駆けつけ、勢力を盛り返した。いっきに本学学生が反撃に転ずると、向こうは数の子を散らすように、夜の闇に消えてしまった。〝敵〟の一団は、学生の話によると目大の右翼集団らしい。

この騒ぎが一段落して、朝が明けかかる四時三〇分ごろ、あずき色のトヨペット・マスクラインが一台、マロニエ通りに侵入してきた。そして突然、車の窓から火炎ビンが投げられた。火ビは七号館バリを警備していた学生からそれた。車はそのまま走り去った。金網の塀が赤々と照らし出された。

これまでに、夜車げの神保町一帯の食堂、喫茶店にそれらしきグループが出没していたことはあったが、このように武装して直接対時したのはほぼ初めてである。

だが、この事件で、すぐバリケード危うしと考えるのは早計であろう。当分、この日はこの日だけの一夜のハプニングに終りそうであるが、あるヘル学生のいうように、「これからはこの辺で夜の一人歩きはできなくなった」ことは事実である。＝K＝